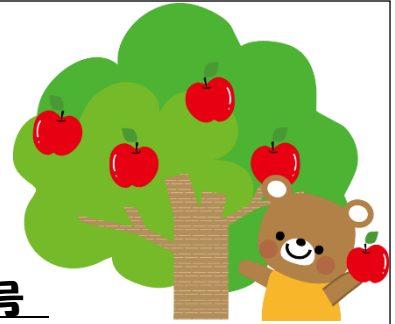


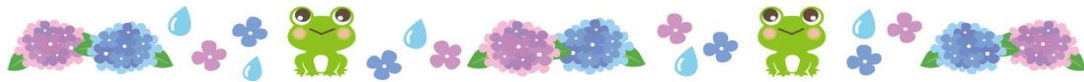
いんごだより



2026年6月号



もう夏のような暑さが続いていますね。そして、梅雨に入っていき徐々に蒸し暑くなっていくと思われます。体調に気をつけて6月を乗り切りましょう！



*「イヤ」の裏側にあるもの

二、三歳児の子どもたちは、おなかが空いているはずなのに、「ごはんだよ」といえば、「イヤ! いらぬ」といいます。大好きな散歩のはずなのに、「イヤ! 行かない」といいます。なんで「イヤ」ばかりいいたいのでしょうか。そして、どうしたらいいのでしょうか。実は、「イヤ」の裏には、二、三歳の子どもたちの新しい発達への願いが隠されているのです。二、三歳は、「大きいー小さい」などの比べることばの認識が、獲得されていくときです。それは、小さい自分ではない、大きい自分を求める願いにも発展することでしょう。だから、二歳児クラスの子どもたちをみていると、同じクラスの少し小さい友だちの着替えを手伝ってあげようとしたり、手を引いてリズムの輪のなかに誘うこともみられます。自分のことを「ひよこぐみじゃない!」などと、強調したくなるのです。そこには、大きい自分になりたい願いと、大きい自分を認めてほしい願いが溢れています。それは「おにいちゃんになりたい」「おねえちゃんになりたい」願いといってもよいでしょう。「大きい自分になりたい」願いをもっている子どもは、自分より大きい存在として、「ごはん食べなさい」などと指示してくるおとなの姿勢が受け入れられないのでしょうか。そして、願い通り大きい自分になれたらいいのですが、まだ自分ではできないことがいっぱいあり、おにいちゃん、おねえちゃんとしては、まだまだ、認めてもらえない存在なのです。「イヤ」は、子どもが小さい自分から大きい自分に生まれかわろうと願っているのに、現実にはそうならないで葛藤している心のあらわれといってもよいのではないのでしょうか。この葛藤は、「大きい自分」を実感し、そして他者からもそれが認めてもらえることを積み重ねながら、しだいに乗り越えていくものです。だからこそ、集団のなかで「おにいちゃん」「おねえちゃん」としての自分を実感できる場面が大切です。そう考えると保育園は、いながらにして「大きい自分」を実感し、発揮できるすばらしい舞台にみえてきます。

～ 〈中略〉 ～

そうはいつでも、「イヤ」にどう対応するかは、そのときそのときで考えなくてはなりません。「イヤ」に正面から立ち向かって、子どもはおとなの願いを受け入れてはくれないでしょう。子どもは自分のことを「大きい」存在として認めてもらえるかどうか、おとなの心に疑心暗鬼なのです。だから子どもの「イヤ」を受け入れるだけでは、子どもの本当の願いを理解することにはなりません。子どもが自分で納得して、その「イヤ」をふところにしまいこめるだけの時間的な余裕や、子どもにとっての「きっかけ」が必要なのではないでしょうか。

参考文献『子どものねがい・子どものなやみ』白石 正久 著

次回のりんご教室は…

りんご教室① … 7月7日(火) 9:50~11:30 「みずあそび」

りんご教室② … 7月21日(火) 9:50~11:30 「みずあそび」

の予定です。

★ 工事の影響で、時間に変更になっています。

持ってくるもの：水筒・シューズ・必要に応じて着替え・タオル・水着

水泳帽はどちらでも大丈夫です。テントは設置しますが、多少、陽が当たる部分があるので、帽子があるとよいと思います。

※保護者の方もぬれる可能性があるので必要に応じて着替え・タオルを持参してください

参加される皆様へ ~ご協力をお願いします~

- お休みをされる場合は、学園まで連絡をください。
- 参加費はいりません。製作やクッキングの活動時には材料費として100円を集めさせていただきます。必要時には、『りんごだより』にて案内します。
- 活動は、主に、草笛学園ゆうぎ室で行います。
- 水分補給のため、お茶か水を持参してください。(ジュース類は控えてください)
- きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合はご相談ください。
- トラブルによるケガ防止のため、参加前には必ず爪を切ってきてください。

